

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：

製品名称：Tボンド[®]M硬化剤

製品番号 (SDS NO)：M17-095-2

製品種類：

接着剤

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途：工業用

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称：大成ファインケミカル株式会社

住所：東京都葛飾区西新小岩3-5-1

担当部署：機能商品事業部 技術グループ

電話番号：03-3691-3370

FAX：03-3691-3371

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

有機過酸化物:タイプ D

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:区分 2

皮膚感作性:区分 1

特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分 3(気道刺激性)

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性):区分 1

GHSラベル要素



注意喚起語:危険

危険有害性情報

熱すると火災のおそれ

強い眼刺激

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

呼吸器への刺激のおそれ

水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

環境への放出を避けること。

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

他の容器に移し替えないこと。

涼しいところに置くこと。

容器を接地しアースをとること。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

Tボンド M 硬化剤

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

火災の場合:指定された消火剤を使用すること。
漏出物を回収すること。
特別な処置が必要である。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合:多量の水/適切な薬剤で洗うこと。
皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。

貯蔵

換気の良い場所で保管すること。
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
日光から遮断すること。
指定温度以下の温度で保管すること。
隔離して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

特定の物理的及び化学的危険性

加熱や衝撃により、爆発的に燃焼する。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 :
混合物

成分名	含有量 (%)	CAS No.	化審法番号
過酸化ジベンゾイル	50.00	94-36-0	3-1349
エチレン=ジベンゾアート	50.00	94-49-5	7-705

危険有害成分

GHS分類区分に該当する危険有害成分

過酸化ジベンゾイル

環境シンボル該当成分

過酸化ジベンゾイル

4. 応急措置

応急措置の記述

一般的な措置

気分が悪いときは医師に連絡すること。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師の診察/手当てを受けること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

付着物を清浄な乾いた布で素早く拭き取る。
汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
皮膚に付着した場合:多量の水/適切な薬剤で洗うこと。
皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

飲み込んだ場合、直ちに医師の診察を受け、医師にその容器又はラベルを見せる。

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

特別な処置が必要である。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

周辺設備に適した消火剤を使用する。

使ってはならない消火剤

噴流水を消火に用いてはならない。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

危険を避けられれば燃焼源の供給を止める。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

適切な容器に入れて廃棄処分まで湿潤状態を保つ。乾燥状態にしてはならない。

二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

(火災・爆発の防止)

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を接地しアースをとること。

安全取扱注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

接触回避

酸、塩基、還元性物質、木、紙、綿、織物等の可燃物との接触を避けること。

衛生対策

- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管

安全な保管条件

- 換気の良い場所で保管すること。
- 涼しいところに置くこと。
- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- 施錠して保管すること。
- 指定温度以下の温度で保管すること。

(避けるべき保管条件)

- 日光から遮断すること。
- 隔離して保管すること。

安全な容器包装材料

- 鉄、銅合金、鉛、ゴム等の容器を使用してはならない。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度、濃度基準値データなし

許容濃度

(過酸化ジベンゾイル)

ACGIH(1996) TWA: 5mg/m³ (上気道及び皮膚刺激)

ばく露防止

保護具

呼吸用保護具

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具

皮膚と身体の個人用保護具は、作業とそれに伴うリスクに基づき選択すること。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：粉粒体

色：白色

臭いデータなし

融点/凝固点データなし

沸点又は初留点データなし

沸点範囲データなし

引火点データなし

自然発火点：380°C

分解温度データなし

自己促進分解温度/SADT：60°C

pHデータなし

動粘性率データなし

溶解度：

水に対する溶解度：不溶

n-オクタノール/水分配係数データなし

蒸気圧データなし

Tボンド M 硬化剤

密度及び/又は相対密度データなし
相対ガス密度(空気=1)データなし
粒子特性データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

温度上昇や異物混入により自己発熱分解を起こす自己反応性物質を含んでいる。

化学的安定性

化学的安定性データなし

混触危険物質

本製品の分解を促進する酸・アルカリ類、アミン類、重金属、還元剤等の異物との接触を避ける。
木、紙、綿、織物等の可燃物との接触を避ける。

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性データなし

局所効果

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[製品]

区分 2, 強い眼刺激

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(過酸化ジベンゾイル)

ラビット 刺激性 (SIDS, 2004); EU CLP Eye Irrit. 2 H319

[CLP規則 附属書VI 表3]

(過酸化ジベンゾイル)

区分 2

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性

[製品]

区分 1, アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(過酸化ジベンゾイル)

cat. 1; 産衛学会勧告, 2012

[CLP規則 附属書VI 表3]

(過酸化ジベンゾイル)

区分 1

生殖細胞変異原性データなし

発がん性

[成分データ]

[IARC]

(過酸化ジベンゾイル)

Group 3: ヒトに対する発がん性については分類できない

[ACGIH]

(過酸化ジベンゾイル)

A4(1996): ヒト発がん性因子として分類できない

催奇形性データなし

生殖毒性データなし

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[製品]

T ホント M 硬化剤

区分 3, 呼吸器への刺激のおそれ

[成分データ]

[区分3(気道刺激性)]

[日本公表根拠データ]

(過酸化ジベンゾイル)

気道刺激性 (ACGIH 7th, 2001)

誤えん有害性データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

[製品]

区分 1, 水生生物に非常に強い毒性

[成分データ]

水生環境有害性 短期(急性)

[日本公表根拠データ]

(過酸化ジベンゾイル)

甲殻類 (オオミジンコ) EC50=0.07mg/L/48hr (SIDS, 2004)

水溶解度

(過酸化ジベンゾイル)

溶けにくい (ICSC, 2002)

残留性・分解性

[成分データ]

(過酸化ジベンゾイル)

BODによる分解度: 84%/28 days (既存点検, 1981)

生体蓄積性

[成分データ]

(過酸化ジベンゾイル)

log Pow=3.46 (ICSC, 2002)

土壤中の移動性

土壤中の移動性データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報
廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

この材料は適法な焼却設備で廃棄処理する。

承認された廃棄物集積場で処理する。

汚染容器及び包装

使用後の空容器は原則的に製品と同じ保管条件で保管する。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号またはID番号 : 3106

正式輸送名 : 有機過酸化物、タイプD、固体

分類または区分 : 5.2

指針番号: 145

特別規定番号 : 122; 274

環境有害性

海洋汚染物質（該当/非該当）：該当

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

酸化性物質類 有機過酸化物 分類5 区分5.2

航空法

酸化性物質類 有機過酸化物 分類5 区分5.2

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

有機則に該当しない

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

過酸化ジベンゾイル

名称通知危険/有害物

過酸化ジベンゾイル

皮膚等障害化学物質（規則第594条の2）

過酸化ジベンゾイル

消防法

危険物

第5類 自己反応性物質 危険等級 II(指定数量 100kg)

化審法における特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

海洋汚染防止法

施行規則 第12条の3の2の10

水生環境有害性: 短期(急性) 区分1 該当物質

過酸化ジベンゾイル

16. その他の情報

GHS分類区分

有機過酸化物 タイプ D:H242 熱すると火災のおそれ

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分 2:H319 強い眼刺激

皮膚感作性 区分 1:H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分 3:H335 (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ

水生環境有害性 短期(急性) 区分 1:H400 水生生物に非常に強い毒性

参照文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN

2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2024 TLVs and BEIs. (ACGIH)

JIS Z 7252 : 2019

JIS Z 7253 : 2019

2023 許容濃度等の勧告（日本産業衛生学会）

Supplier's data/information

Hazard Communication Standard – 2012 (29 CFR 1910.1200)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。